保存版

自主防災訓練メニュー



■　本メニューの使い方

本メニューは、東消防署で用意している１４種類の自主防災訓練を紹介し、みなさんの地域で訓練を企画していただく際の参考としていただくものです。

訓練内容のほか“訓練（所要）時間や訓練実施に適した場所、地域で用意していただきたい資器材”等についても記載しています。

目　次

CONTENTS

00　訓練メニュー一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 1

01　安否確認・現地本部運営訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 2

02　初期消火訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 4

03　煙道体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 6

04　心肺蘇生訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 7

05　応急手当訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 8

06　救助訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 9

07　搬送訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 10

08　避難誘導訓練・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 12

09　防災講話・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 13

10　DIG（災害図上訓練）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 14

11　簡易水防工法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 16

12　地震体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 17

13　子供防火服着用体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 18

14　放水体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 19

15　自主防災訓練実施届・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 20

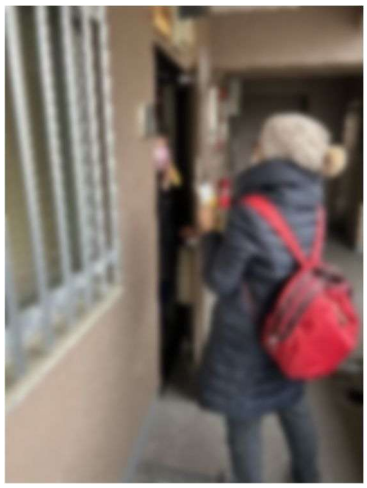
■　訓練メニュー一覧

No.	名称	所要時間	場所
1	安否確認・現地本部運営訓練	30 分～	お住まいの地域全体
2	初期消火訓練	15 分～	公園や駐車場等、水で濡れても大丈夫な場所
3	煙道体験	1 人 20 秒程度	煙ハウス（幅 3m・長さ 6m・高さ 2.5m 程の大きさ）を展開できる場所
4	心肺蘇生訓練	30 分～	屋内外どちらもでも可
5	応急手当訓練	15 分～	屋内外どちらもでも可
6	救助訓練	30 分～	屋内外どちらもでも可
7	搬送訓練	15 分～	屋内外どちらもでも可
8	避難誘導訓練	30 分～	お住まいの地域
9	防災講話	15 分～	屋内外どちらもでも可
10	ＤＩＧ（ディグ） 災害図上訓練	60 分～	屋内（コミセンや集会所、体育館等）
11	簡易水防工法訓練	15 分～	屋外（公園等、水道が使用できる場所）
12	地震体験（地震体験車）	1 組 3 分程度	屋外（地震体験車が進入・運用できる広く平坦な場所に限る）
13	子供消防服着用体験	1 人 2 分程度	屋内外どちらでも可
14	放水体験	1 人 2 分程度	屋外（放水した際に周囲に影響がない場所）

訓練 No. 1	安否確認・現地本部運営訓練

震災





目 的

地震発生時の自主防災会長・組長等の重要な役割である「安否確認・現地本部運営」について、実際に地域で訓練を実施するもの。
また、地域住民も安否確認札等を掲出する訓練をするもの。

訓練内容

次の１～３の流れで訓練準備を行います。

１　安否確認に関する地域内のルール作り

検討事項については次ページ参照

２　回覧チラシ等で安否確認札の配布、訓練実施日時の周知

消防署で用意した安否確認札の配布をお願いします。

訓練日時や訓練内容、安否確認の重要性等を地域住民に周知するためのチラシを消防署で印刷できますので、ご相談ください。（次ページ参照）

３　地域のルールに沿って、概ね次の①～④の流れで訓練を実施



①各世帯で安否確認札等を掲出



②組長等が掲出状況を確認



③未掲出世帯へ声掛け



④現地本部で会長等が結果を集約

訓練計画ポイント

【人　数】全地域住民
【時　間】30 分～
【場　所】お住まいの地域全体
【地域で用意していただきたい資器材】特になし

【安否確認・現地本部運営に関する検討事項】

地域で最低限ルール作りが必要な事項は下表のとおりです。

ひとまず、一般的なルールで訓練を実施していただき、その後地域に合ったルール作りをしていただくのがお勧めです。

検討事項	一般的なルール	概要等
実施のタイミング	市域で震度 5 強以上の地震が発生した直後	決まっていないと、安否確認札等を掲出する世帯、しない世帯がバラバラになる可能性があります。
安否を知らせる方法（ツール）	安否確認札、タオル等	消防局作成の安否確認札（下画像参照）を消防署でお渡しすることができます。ご相談ください。
安否確認の実施者・範囲	組長が組内を確認	誰がどの範囲を確認するのかが決まっていれば、効率的かつ漏れなく実施できると思われます。
現地本部の位置	地域の公園、集会所	防災倉庫のある場所や一時集合場所と同所だと、その後の災害対応がスムーズになると思われます。
各種様式（安否確認の記録様式 等）	各種様式や情報を整理する際に有効な地域の地図のサンプルを消防署でお渡しすることができます。また東消防署本署では地図等を拡大印刷することもできます。	

安否確認札



回覧チラシ例（両面 1 枚刷り）

※〇〇の所に日時等を入力すればそのまま使用できます



訓練 No. ２	初期消火訓練

震災 火災



目 的

消火器や消火バケツ等、初期消火資器材の使用方法を学ぶ。

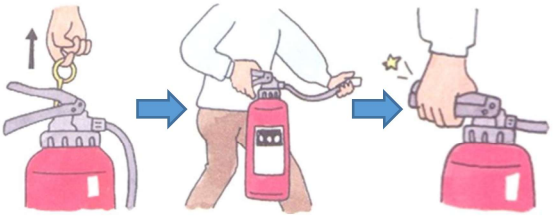
災害時だけではなく、平常時にも役立つ訓練です！

訓練内容

初期消火訓練では次のような訓練ができます。

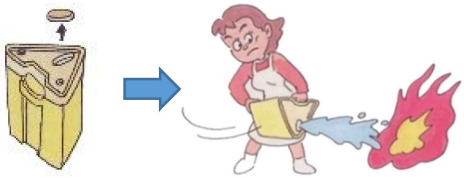
●消火器

水道水が充填されている、訓練用の「水消火器」で訓練することができます。
使用方法は実際の消火器と同様です。



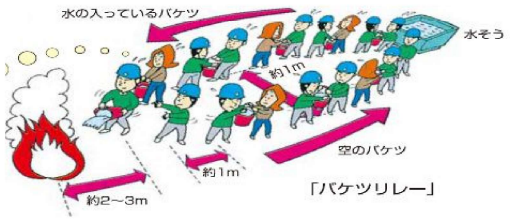
●消火バケツ

両足を開いて腰をおとし、バケツを腰まで引いて前に押し出すように水をかけます。



●バケツリレー

火元から離れた水利（プールや河川等）から協力して水を運び消火する訓練です。
競争形式で実施することもできます。



訓練計画ポイント

【人　数】５人～
【時　間】１５分～
【場　所】公園や駐車場等、水で濡れても大丈夫な場所
【地域で用意していただきたい資器材】
　特になし

【実践的な初期消火訓練のアイデア】

基本的な資器材の取扱いができるようになったら、次のような発災時を想定した実践的な初期消火訓練にも取り組みましょう。

消火器を使用する訓練

○あらかじめ放水に適した場所に水消火器を設置するのではなく、実際の設置場所等、火元（的）から離れた場所に設置し、適切な場所に搬送してから放水する。

○119 番通報をする人、助けを呼ぶ人、消火器を取りに行く人、安全管理を行う人等、複数人で役割分担して実施する。

施設に設置されている設備を使用する訓練



マンション等には規模や用途等により、消火器だけでなく、自動火災報知設備や屋内消火栓（右写真）等の様々な設備が設置されています。

これらの設備の使用方法を把握することは、大規模災害時以外でも非常に有用です。使用方法は消防職員から教養させていただくことができます。

【消火器　豆知識】

性能

放射時間：概ね 15 秒程　消火薬剤の種類：粉末が一般的

消火能力

消火器 1 本で消火可能な火災は、概ね自分の腰ぐらいの炎が目安になります。

天井まで炎が届いてしまった場合は、避難を優先しましょう。

適応火災

消火器本体には、適応火災の種類を示すマークが表示されています。



「普通火災」木材、紙、繊維等が燃える火災



「油火災」ガソリン、灯油、てんぷら油等の火災



「電気火災」変圧器や配電盤など、電気設備の火災

消火器の管理や廃棄について

消火器は資源やゴミとして出すことができません。廃消火器リサイクルシステム等を活用し処分してください。

詳細は市公式ウェブサイトを確認してください

名古屋市　消火器処分　検索

訓練 No. ３	煙道体験

火災



目 的

煙を充満させた空間で煙の怖さを体験し、適切な避難方法を学ぶ。
火災で亡くなる方のほとんどが、煙を吸ったことによる一酸化炭素中毒によるものです。

訓練内容

消防署のスモークマシンで、「煙体験ハウス」（上写真のオレンジのもの）内等に煙を充満させ、適切な避難方法で通り抜ける訓練です。

訓練計画ポイント

【人　数】１０人～
【時　間】煙体験ハウスは１人 20 秒程で通り抜けられます。
【場　所】煙体験ハウス（幅 3m・長さ 6m・高さ 2.5m程の大きさ）を展開できる場所
【地域で用意していただきたい資器材】
スモークマシン用の電源（コンセント）をお借りする場合があります。
【注意点】
・スモークマシンの煙は人体に無害ですが、アレルギー体質の方や体調の悪い方等はアレルギー症状を引き起こす恐れがあるので注意してください。

訓練 No. ４	心肺蘇生訓練

救急



目 的

心肺停止状態となった方に対する適切な応急手当（観察や胸骨圧迫、ＡＥＤ等の心肺蘇生法）について学ぶ。

災害時だけではなく、平常時にも役立つ訓練です！

訓練内容

【訓練スケジュール例】

項目	時間
概要説明（市民による心肺蘇生の重要性等について）	５分
実技指導・実演	５分
訓練	20 分

目的や時間に応じて訓練内容を変更することができます。

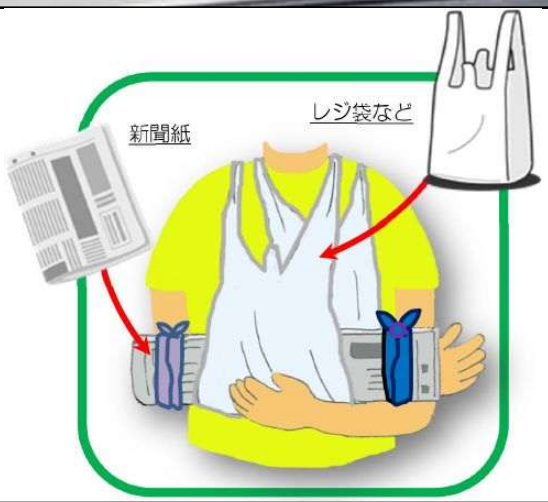
- 短時間で心肺蘇生法の手順等を知りたい：約 15 分
- 心肺蘇生法を一通り訓練したい：約 30 分
- 心肺蘇生法をしっかり身につけたい：約 60 分

訓練計画ポイント

【人　数】５人～
【時　間】30 分～
【場　所】屋内（コミセン・集会所、体育館等）
　　屋外（公園やグラウンド等にブルーシートとマットを敷いて実施します。）
【地域で用意していただきたい資器材】
特になし

訓練 No. ５　応急手当訓練

救急



目 的

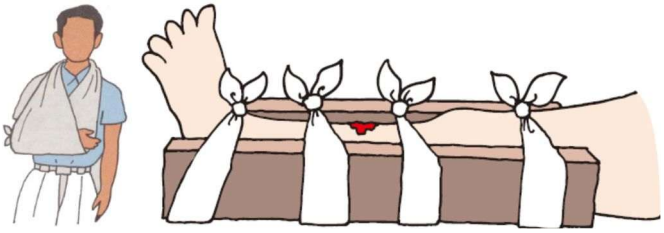
地震の揺れで転倒し負傷してしまった方等に対する、適切な応急手当（外傷処置等）について学ぶ。

災害時だけではなく、平常時にも役立つ訓練です！

訓練内容

次のような応急手当について訓練します。

●骨折処置
三角巾での腕吊りやダンボール等による固定処置



●止血・被覆処置
出血時の止血法や三角巾による被覆処置



●気道異物の除去
食べ物等を喉に詰まらせてしまった場合の対応



訓練計画ポイント

【人　数】５人～
【時　間】15 分～
【場　所】屋内外どちらでも可
【地域で用意していただきたい資器材】
特になし（机や椅子があると訓練しやすくなります。）

訓練 No. 6	救助訓練

震災



目 的

地震による家具転倒等で下敷きになった人を助け出す方法を学ぶ。

※腰や膝等を傷めないよう注意してください。

訓練内容

下のような状況を再現し訓練を行います。

転倒家具などからの救出



※テコ棒の真上に顔がこないように気をつける。

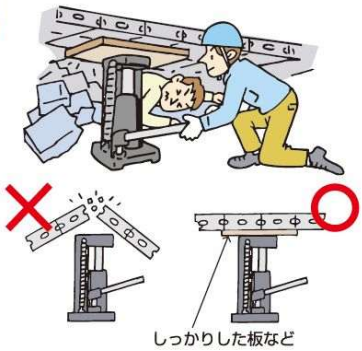
使用器具

バール・ジャッキ・角材・板　等

救出要領

1.救助の障害となるものをあらかじめ除去する。
2.数人で持ち上がる場合は、人力で持ち上げる。
3.転倒した家具等の収容物が取り出せる時は、できるだけ出して軽くしてから持ち上げる。
4.バールや角材等をテコとして使用し持ち上げる場合は、できた空間に角材等を入れて支える。

倒れたブロック塀からの救出



使用器具

バール・ジャッキ・角材・板　等

救出要領

1.バールや角材等をテコとして使用し、持ち上げる。
2.ジャッキで持ち上げる。

訓練計画ポイント

【人　数】５人～
【時　間】30 分～
【場　所】屋内外どちらでも可（屋外の方が好ましい。）
【地域で用意していただきたい資器材】
　特になし（地域で保有している救助用資器材を使用しても結構です。）

訓練 No. 7	搬送訓練

震災



目 的

身の回りにある毛布や椅子等で負傷者を搬送するための応急担架を作成し、素早く安全に搬送する方法を学ぶ。

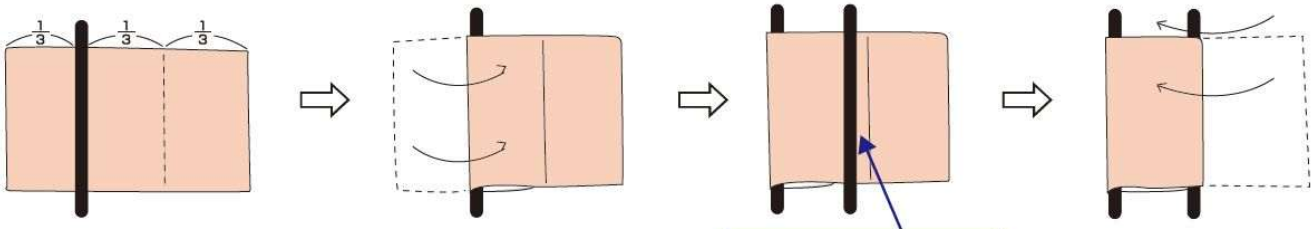
※腰や膝等を傷めないよう注意してください。

訓練内容

応急担架には次のようなバリエーションがあります。

●毛布と丈夫な棒の利用

①1／3のところのやや右に丈夫な棒を置く　②折り返す　③折り返された端より内側にもう1本置く　④折り返す



※十分余裕をとる

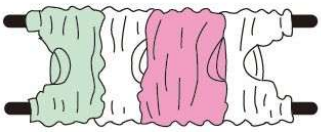
●毛布の利用

毛布の端を両側から丸めて持ちやすくする



●着衣の利用

裏返しにして袖を通し隙間なく並べる





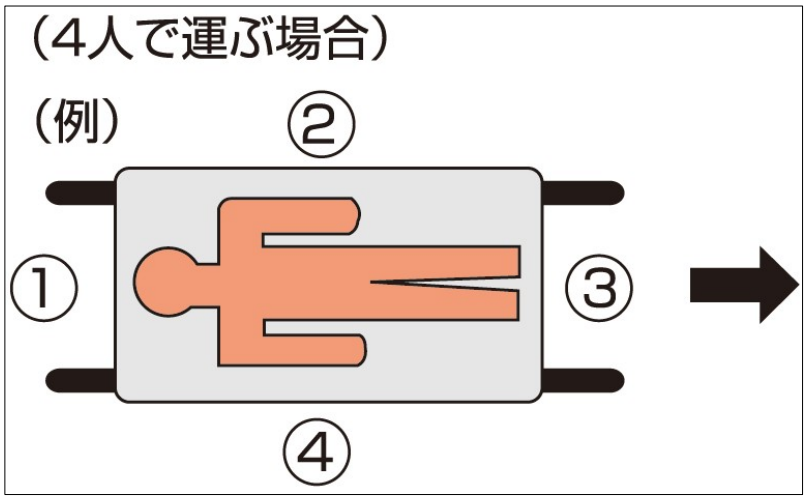
※ボタンのあるものは必ずかける

訓練計画ポイント

【人　数】５人～
【時　間】15 分～
【場　所】屋内外どちらでも可
【地域で用意していただきたい資器材】
　特になし（地域で保有している搬送用資器材を使用しても結構です。）

【搬送方法】

・できるだけ 4 人以上の人員を確保し下図のように人員を配置します。（1 人 1 本ずつ棒を持っても大丈夫です。）
・搬送は負傷者の足方向を前として行い、頭側（後方）の搬送要員は負傷者の容態を適宜観察します。また、担架を持ち上げる際は頭側を先に上げ、地面に降ろす際は足側を先に下げると負傷者は安心します。
・担架を持ち上げる際等の掛け声は、原則、頭側の搬送要員がリーダーシップをとって行ってください。
・**応急担架での一度の搬送はできるだけ短距離とし、解けや緩みがないか、こまめに安全確認を行ってください。**



※応急担架を使用しない搬送方法も訓練できます。



【搬送訓練実施時の注意点】

応急担架作成時

棒・毛布・上着等の強度を確認した上で実施してください。**（市販の物干し竿は、強度不足の場合が多いため安易に使用しないでください。）**

応急担架での搬送時

・搬送要員が膝や腰を痛めないように注意して実施してください。
・実際に人を乗せて搬送訓練を行う場合は、乗せる前に解けや緩みがないか、こまめに応急担架の安全確認を行ってください。

⇒消防署保有の訓練人形を使っていただくこともできます。

訓練 No.8	避難誘導訓練

震災 水害



目 的

災害発生時に安全な経路で避難できるようにする。
また、自力で避難できない負傷者や高齢者等の要支援者を、安全に避難させることができるようにする。

訓練内容

次の手順で実施すると効果的です。

	項目	概要
①	避難経路の検討	ハザードマップやまち歩き等で危険箇所の情報を集め、安全な避難経路を検討します。 訓練 No.10 の「ＤＩＧ」を実施すると、より検討しやすくなります。
②	基本的な訓練	一時集合場所等に集まってから点呼を取り、①で検討した避難経路で実際に避難します。また、避難しながら改めて危険箇所等の確認をします。
③	要支援者を考慮した訓練	高齢者、障害者、乳幼児等の要支援者の避難を考慮して、車いす等の取扱い方法を確認する等の訓練を行います。

訓練計画ポイント

【人　数】訓練参加者
【時　間】30 分～
【場　所】お住まいの地域
【地域で用意していただきたい資器材】
　特になし

訓練 No.９	防災講話

震災 火災 水害 救急



目 的

災害に対する知識や心構えを学ぶ。

訓練内容

消防職員が地域に出向し防災についての講話を実施します。

【講話を実施した機会の例】
①自主防災訓練　②学区・町内会の防災会議　③女性会・敬老会
④地域サークル　⑤学校

【講話内容の例】
①自主防災組織の必要性・必要な取組み
②家庭での防災対策
③ハザードマップの見方・マイタイムラインの作成方法
④過去の地震･水害の教訓　⑤火災予防　⑥予防救急（熱中症対策等）

※講話内容や時間はご希望にお応えします。

訓練計画ポイント

【人　数】５人～
【時　間】１５分～
【場　所】屋内外どちらでも可
【地域で用意していただきたい資器材】
パソコンやプロジェクターを使用する必要がある場合は、電源をお借りすることがあります。

訓練 No.10　ＤＩＧ（ディグ）災害図上訓練

震災　水害



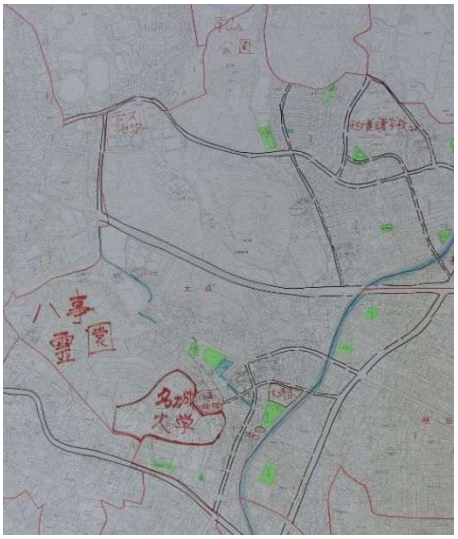
目 的

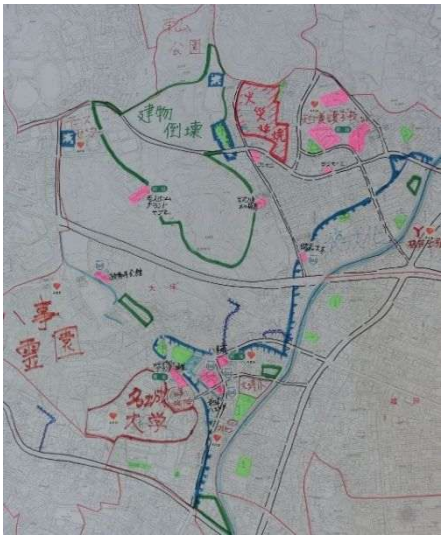
地域で大きな災害が発生した場合を想定し、被害状況等を地図に書き込むことで、災害に対する地域の課題を把握し、それを基に安全な避難経路や、必要な防災対策を検討する。

訓練内容

①地域の白地図に　②河川や公園等の地理的条件を書込む　③ハザードマップ等の災害リスクを書き込む







地図を③まで完成させ、災害発生時の地域の災害リスクや、課題・対策等について検討します。

※スケジュール等の詳細については、次ページ参照

訓練計画ポイント

【人　数】５人～

【時　間】60 分～

【場　所】屋内（コミセンや集会所、体育館等）

【地域で用意していただきたい資器材】

机と椅子があると訓練がしやすくなります。

【ＤＩＧの効果】

効果的な防災活動を行うためには、地域特性や災害リスク等を把握することが必要です。ＤＩＧは、それらを参加者全員で共有し検討できる有効な訓練です。

【ＤＩＧスケジュール例】

項目		時間配分	備考
①	導入（手順の説明、役割分担）	５分	役割分担 ・リーダー役・書記役・発表役
②	地理的条件等を書き込む	15分	記入項目、配色は下の表１参照
③	災害想定の発表	５分	今回は震災を想定しています
④	災害リスクを書き込む	15分	記入項目、配色は下の表２参照
⑤	地域の災害リスクや、課題・対策等について検討	15分	地図をもとに、グループで検討
⑥	発表・まとめ	５分	グループごとに発表

【記入例】

表１

項目	配色
自然条件	・主要道路→オレンジ(実線) ・狭隘道路 → 紫(細い実線) ・河川、池 → 青 ・公園、広場 → 緑(囲み)
防災拠点	・官公庁、医療機関、学校等 ・コンビニ、ガソリンスタンド等 → ●(青シール)
危険個所	ブロック塀、石垣、広告塔等 → ●(赤シール)
地域の役立つ組織・機材等	・組織(地域防災協力事業所等) → 対応するシール ・機材(AED、井戸、公衆電話等) → 対応するシール

表２

項目	配色・参照資料
火災延焼範囲	赤で囲って網掛け 危険度評価
家屋倒壊	黒で囲って網掛け 危険度評価
道路閉塞	黒で×印 危険度評価
土砂災害	茶で囲って網掛け 地震ハザードマップ
液状化	緑で囲って網掛け 地震ハザードマップ

訓練 No.11	簡易水防工法訓練

水害



目 的

家庭にある資器材で浸水被害を防止・軽減する簡易水防工法を学ぶ。

水害による浸水が予想される地域にお勧めです。

訓練内容

次のような簡易水防工法について訓練します。

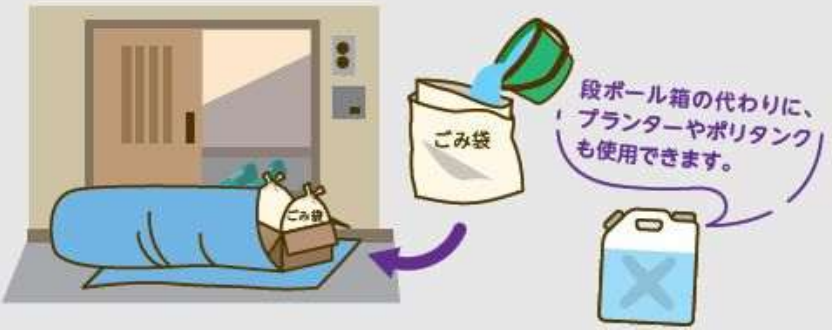
止水板による工法

長めの板と土のうを使用します。



簡易水のうと段ボール箱による工法

土のうや水のう（４５リットル程度のごみ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れたもの）を段ボール箱に入れて、レジャーシートで巻き込み、使用します。



※簡易水防工法は、あくまでも小規模な水害の初期段階で行うものです。
危険を感じる前に早めに避難してください。

訓練計画ポイント

【人　数】５人～
【時　間】15分～
【場　所】屋外（公園等、水道が使用できる場所）
【地域で用意していただきたい資器材】
特になし

訓練 No.12　地震体験（地震体験車）

震災



目 的

地震の揺れを疑似体験することにより、地震に対する危機意識を醸成し、家具転倒防止対策をはじめとした防災対策の促進を図る。

体験内容

名古屋市では、震度７までの震度階級を始め、過去の地震や南海トラフ地震（想定）の揺れを体験できる地震体験車（ジイジョ号）と、VR ゴーグルを掛けることで地震の揺れと連動した VR 映像を視聴することができる VR 地震体験車（NGK クロコくんシミュレーター）の２台の地震体験車を保有しています。

なお、VR 地震体験車は地震の揺れのみを体験することもできます。

訓練計画ポイント

【人　数】１度に最大で４人まで体験できます。
【時　間】１組の地震体験で約３分
【場　所】屋外（ただし、地震体験車（準中型車又は中型車）が進入・運用できる広く平坦な場所に限る（小学校グラウンドや公園等））
【地域で用意していただきたい資器材】特になし
【予　約】東消防署で下表のとおり受付けています。

使用日	予約抽選の受付期間	使用日	予約抽選の受付期間
４月～６月	前年の 12 月１日まで	10 月～12 月	同年の６月１日まで
７月～９月	同年の３月１日まで	翌年１月～翌年３月	前年の９月１日まで

※予約が重複した場合は抽選となります。先着順ではありません。
※受付期間以降で予約がない場合は先着順となります。
【留意点】雨天等の場合は原則、地震体験を中止します。

訓練 No.13　子供消防服着用体験

震災　火災　救急



目 的

消防隊員・救急隊員が着用する子供用の消防服を着用することで、子供の防火・防災意識の向上を図る。

訓練内容

子供用防火服・救急服を着て、ヘルメット・帽子を被り、写真撮影を行う。
消防車と一緒に写真撮影をすることも可能です。
（出動時等は消防車との撮影はできません。）



レスキュー隊（オレンジ）
110 ㎝



消防隊（グリーン）
110・130 ㎝



救急隊（赤）
100・120・140 ㎝

訓練計画ポイント

【人　数】５人～
【時　間】１人２分程度
【場　所】屋外・屋内どちらでも可（消防車との撮影をする場合は屋外）
【地域で用意していただきたい資器材】
特になし

訓練 No.14　放水体験

震災　火災



目 的

火災の際に消防隊や消防団が行う放水活動を体験し、防火・防災意識の向上を図る。

訓練内容

消防車や消防団が使用する可搬式ポンプを使用し、放水体験を行います。
訓練 No.13 の子供消防服を着用して放水体験をすることも可能です。
また、写真撮影もしていただけます。

訓練計画ポイント

【人　数】１人ずつ行います。
【時　間】１人２分程度
【場　所】屋外（公園等、水道が使用できる場所（水槽に水を溜めます）で、放水した際に周囲に影響がない場所）
【地域で用意していただきたい資器材】なし
【留意点】
・体験中は消防職員又は消防団員が補助につきます。
・体験者の靴等に水がかかることがあります。

コピーしてご利用ください。

別記様式

令和　　年　　月　　日

（あて先）東 消 防 署 長

届 出 者 氏 名
住 所
連絡先

自 主 防 災 訓 練 等 実 施 届

次のように自主防災訓練等を実施しますので、届出します。

実施日時		令和　年　月　日　時　分 ～　時　分まで	
実施場所			
実施対象者		学区　　自主防災会	
参加予定人数		人	
訓練内容	☐安否確認 ☐初期消火 ☐煙道体験 ☐心肺蘇生 ☐避難誘導 ☐応急手当 ☐救助 ☐搬送 ☐避難誘導 ☐防災講和 ☐DIG ☐水防工法 ☐地震体験車 ☐子供消防服 ☐放水体験 ☐その他	備考	
職員の派遣		必要　・　不要	
学区委員長への連絡		月　日　学区防災安心まちづくり委員長に連絡済み	
消防団長への連絡		月　日　消防団長に連絡済み	

本届は活動実施日の概ね１月前までに消防署(警防地域課)に届出をしてください。
訓練内容がよく分からない場合やご不明な点がある場合は、事前にご相談ください。

記 入 例

別記様式

令和　○年　○月　○日

（あて先）東 消 防 署 長

届 出 者 氏 名　消防　太郎
住　所　東区筒井１丁目８－30
連絡先　052－935―0119

自 主 防 災 訓 練 等 実 施 届

次のように自主防災訓練等を実施しますので、届出します。

実施日時			令和　○年　○月　○日　○時○○分　～　○時○○分まで
実施場所			○○小学校グラウンド
実施対象者			○○　学区　　○○○○　自主防災会
参加予定人数			１００　人
訓練内容	☑安否確認 ☑初期消火 □煙道体験 □心肺蘇生 □応急手当 □救助 □搬送 □避難誘導 □防災講和 □DIG □水防工法 ☑地震体験車 □子供消防服 □放水体験 □その他	備考	安否確認訓練を実施した後、○○小学校グラウンドにおいて水消火器による初期消火訓練及び地震体験車の体験を行う。
職員の派遣			必要　・　不要
学区委員長への連絡			○月　○日　○○学区防災安心まちづくり委員長に連絡済み
消防団長への連絡			○月　○日　○○消防団長に連絡済み

本届は活動実施日の概ね１月前までに消防署（警防地域課）に届出をしてください。
訓練内容がよく分からない場合やご不明な点がある場合は、事前にご相談ください。

様式のダウンロードは　東消防署　自主防災訓練等実施届　検索

訓練内容等のご相談は、東消防署（935-0119）までお問い合わせください。

名古屋市東消防署

令和 8 年 10 月 5 日発行

〒461-0003　名古屋市東区筒井一丁目 8 番 30 号

TEL：052-935-0119　fax: 052-937-4468